

<第40回調査>

2012年9月24日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2012年9月11日(火)13:00~2012年9月18日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は1234件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

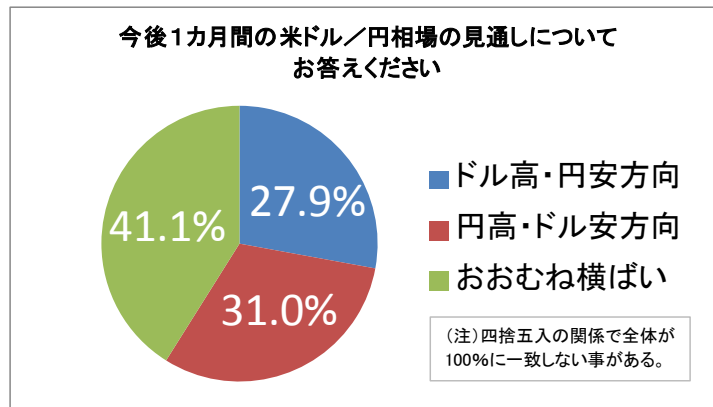
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**【第40回調査結果略報：個人投資家のユーロ弱気姿勢が緩和】**

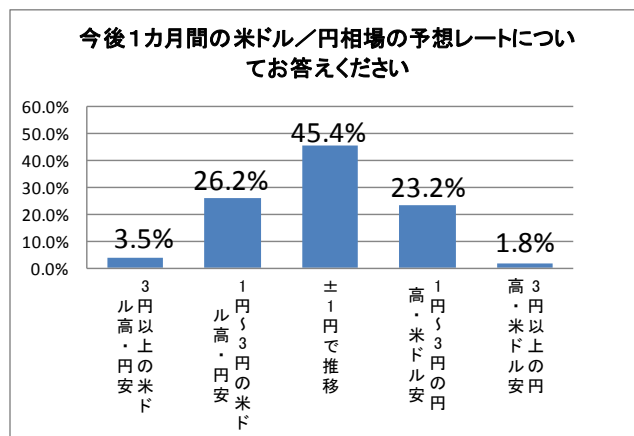
**問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください**

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が27.9%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は31.0%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は▲3.1%ポイントとなり、前月のドル高・円安予想優勢(+17.1%ポイント)の状態からややドル安・円高予想優勢に転じた。調査期間中のドル/円相場は、米連邦公開市場委員会(FOMC)で量的緩和第3弾(QE3)が決まった事を受けて約7カ月ぶりの安値となる77.12円まで下落する場面も見られたが、その後はQE3を好感して株高が進んだ事や、QE3の買入れ対象債券に米国債が含まれなかったため10年債利回りが上昇した事などから78.92円まで反発した。もっとも、FX投資家の間では、このままドル高・円安が進むと予想する向きは少数のようだ。※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



**問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください**

「今後1カ月間のドル/円相場の予想レート」については、「±1円で推移」が45.4%と最も多く、次いで「1円～3円のドル高・円安」が26.2%、「1円～3円の円高・ドル安」が23.2%、「3円以上のドル高・円安」が3.5%、「3円以上の円高・ドル安」が1.8%の順となった。ヒストグラムの形状はわずかながらドル高・円安側に傾いており、問1の「米ドル/円予想DI」がやや円高・ドル安予想優勢に傾いた結果とはやや不整合的である。ある種の「気迷いムード」が感じられる結果となったが、これは、FX投資家がドル/円相場に明確な方向感を見出せない状況にある事の表れであろう。

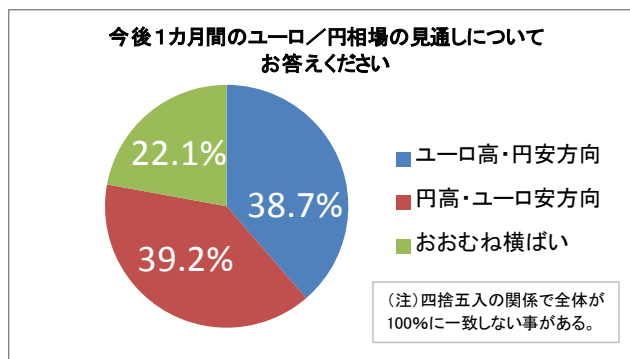


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

### 問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が38.7%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が39.2%となった。この結果「ユーロ円予想DI」は▲0.5%ポイントとなり、6カ月連続の円強気・ユーロ弱気姿勢維持となったが、DIのマイナス幅は2カ月連続で縮小した。調査期間中のユーロ/円相場は99.52円から103.85円のレンジをほぼ右肩上がりの上昇となった。欧州中銀(ECB)による無制限の国債購入決定をきっかけに、スペインの国債利回りが大幅に低下するなど欧州債務問題に一服感が出た事が、FX投資家のユーロ先安感を後退させたようだ。

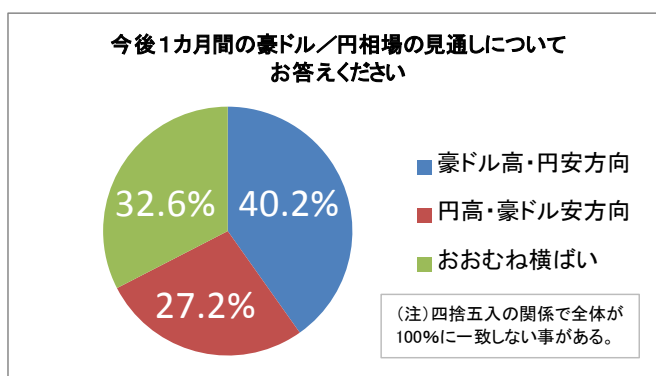
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が40.2%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は27.2%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+13.0%ポイントとなり、4カ月連続で豪ドル強気・円弱気姿勢を維持したが、予想DIのプラス幅は前月の+21.2%ポイントから縮小した。調査期間中の豪ドル/円相場は米QE3を好感した株高などを背景に80.70円から83.07円のレンジで概ね堅調に推移した。にもかかわらず、FX投資家の豪ドル強気度合いがやや低下した背景には、このところ度々話題に登る中国の景気減速懸念があるものと思われる。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

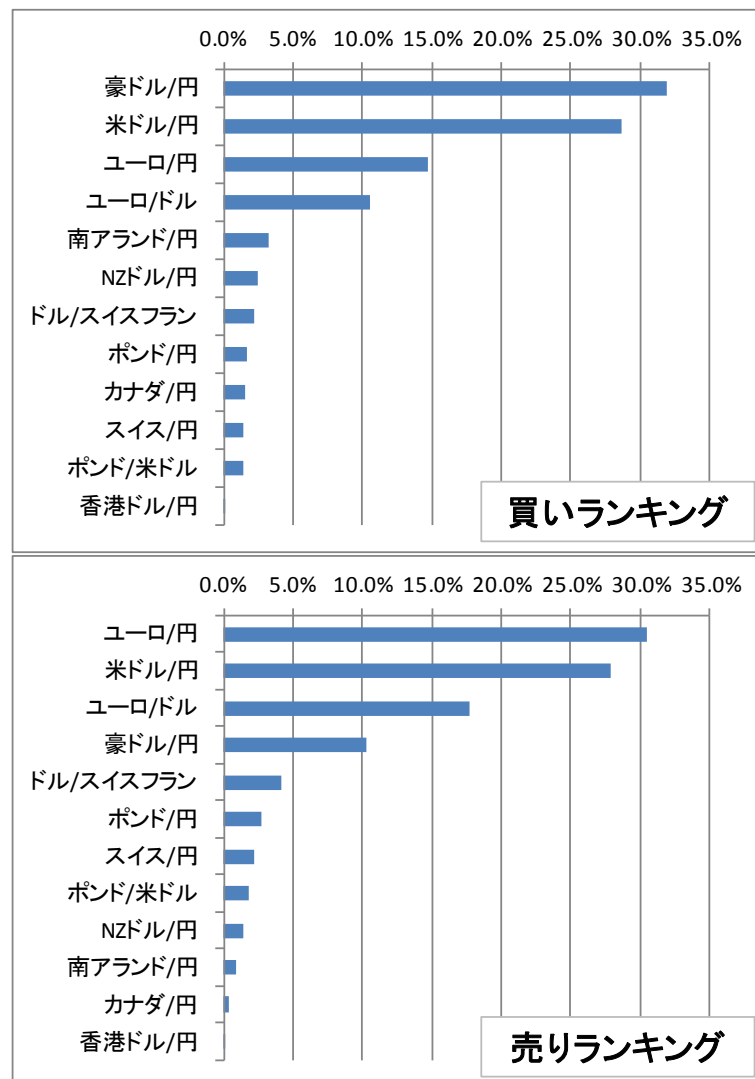


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル/円(31.8%)、2位米ドル/円(28.6%)、3位ユーロ/円(14.7%)、4位ユーロ/ドル(10.5%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/円(30.5%)、2位米ドル/円(27.9%)、3位ユーロ/ドル(17.7%)、4位豪ドル/円(10.3%)となった。「買い」で注目の上位4通貨ペアについては、前月と同順位となったが、1位豪ドル/円と2位米ドル/円の回答割合が減少(前回はそれぞれ、37.1%、33.1%)した一方で、3位・4位のユーロ/円とユーロ/ドルの回答割合が増加(前回は13.5%、3.9%)した。「売り」で注目の通貨ペアについても順位は前月と同様だが、1位ユーロ/円の回答割合が低下(前月は37.2%)している。ここでも、FX投資家のユーロ弱気姿勢が修正されつつある様子が示されており、今後の動向が注目される。

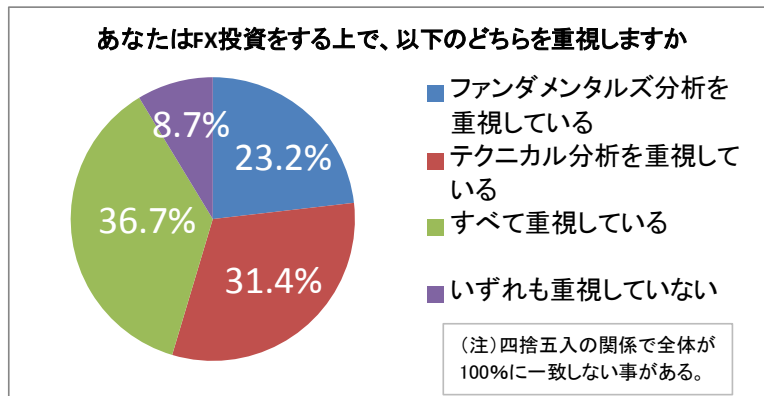


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

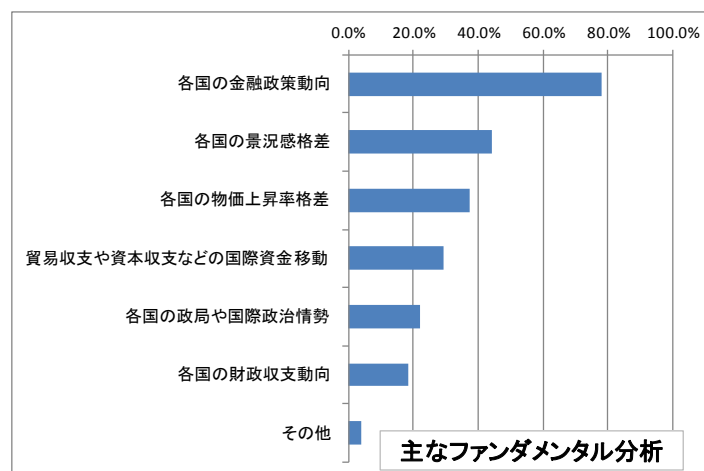
**問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?**

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視」と答えた割合が23.2%であったのに対し「テクニカル分析を重視」と答えた割合が31.4%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が36.7%と引き続き最も多かった。調査期間中に米QE3が実施されるなど、ファンダメンタルズに大きな変化が見られたにもかかわらず、以前に比べるとやや「テクニカル重視」が増加(前回28.8%)している点が興味深い。欧州債務問題に一服感が出る中で、ユーロ/円やユーロ/ドルが200日移動平均線の上抜けとともに上昇を加速させており、こうした点に注目するFX投資家が増え始めている可能性もありそうだ。



**問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか? (いくつでも)**

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(78.3%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(44.2%)」、「各国の物価上昇率格差(37.2%)」、「貿易や資本収支等国際資金移動(29.3%)」、「各国の政局や国際政治情勢(22.0%)」、「各国の財政収支動向(18.4%)」、の順に続いた。今回も「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して8割近い回答割合を集めており、この傾向は調査開始以来変わらない。一方で「各国の財政収支」に注目する割合が前回(23.5%)から低下しており、今年2月の第33回調査で記録した42.3%からは半分以下に低下している。欧州債務問題に対するFX投資家の懸念が後退しているものと考えられる。

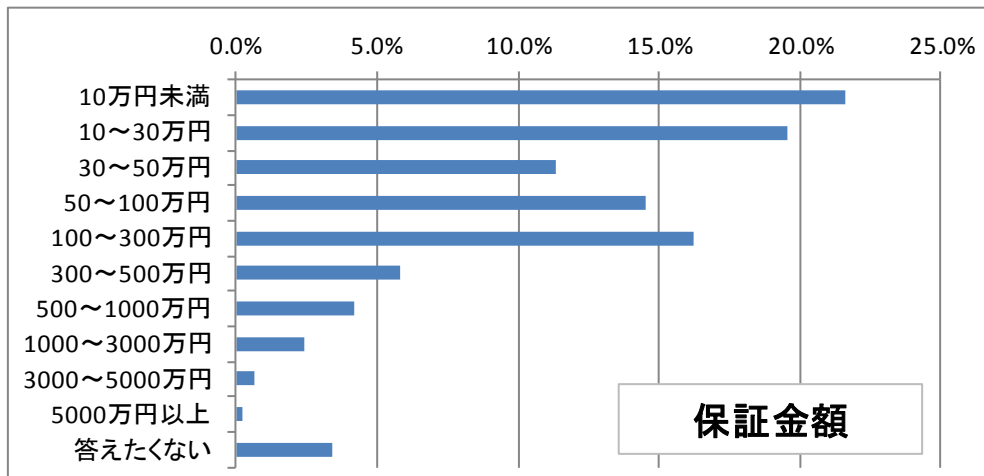


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

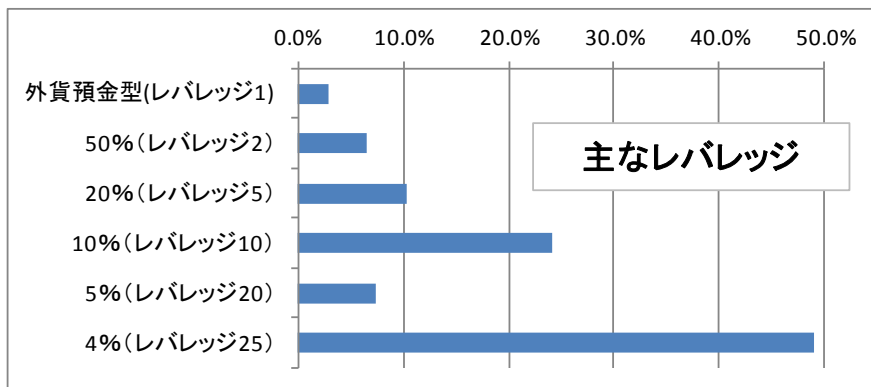
問8:FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が21.6%と最も多く、以下「10～30万円(19.5%)」、「100～300万円(16.2%)」、「50～100万円(14.5%)」、「30～50万円(11.3%)」、と続いた。7割近くものFX投資家(合算割合で66.9%)が100万円以下の保証金で取引を行っており、最大レバレッジが25倍である点を考慮すると比較的小口の取引が主流である事がわかる。いまや世界の為替市場で無視できない存在となった本邦FX投資家は、こうした小口取引の集合体である可能性が極めて高いと言えるだろう。改めてFX投資家の裾野の広さを感じさせる結果となった。



問9:FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が48.9%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が24.1%、「5%(レバレッジ20)」が10.3%と続き、以下「20%(レバレッジ5)」が7.3%、「50%(レバレッジ2)」が6.5%となった。合算割合で8割以上のFX投資家が10倍以上のレバレッジを選択しており、FXの最大の特徴のひとつである高レバレッジを活かして取引する投資家が大半を占めていることがわかる。なお、今回調査におけるFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は約16.8倍であり、前月の16.2倍からやや上昇している。

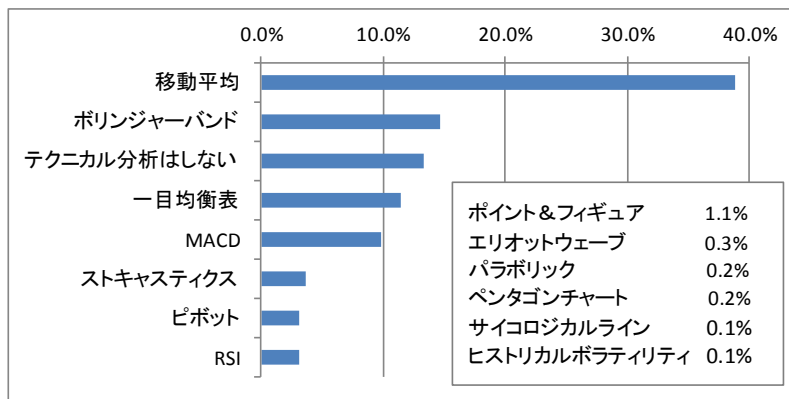


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。



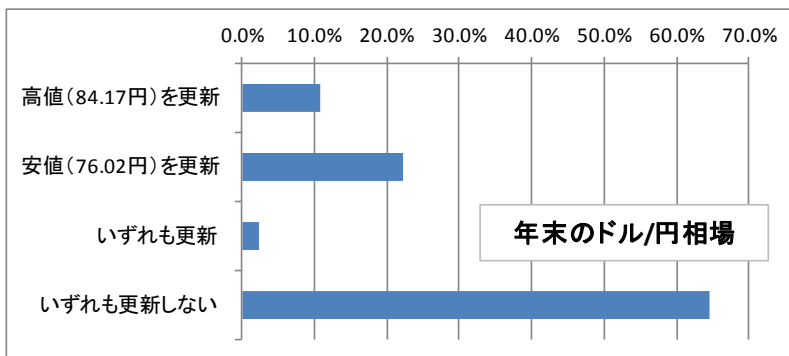
**問10:テクニカル分析では何を主に活用していますか？(ひとつだけ)  
また、その活用方法を教えてください。**

今月の特別質問項目として、テクニカル分析では何を主に活用していますか？(ひとつだけ)と尋ねたところ、「移動平均」と答えた割合が38.8%と最も高く、以下「ボリンジャーバンド(14.6%)」、「一目均衡表(11.5%)」、「MACD(9.8%)」と続いた。また、その活用方法について自由記述形式で尋ねたところ、「移動平均」と答えた向きからは「移動平均線の傾きや現値との位置関係などを確認する」との回答が目立った。もっとも、よく使う移動平均の種類については、5日、10日、20日あるいは21日、75日、100日、200日など様々であり、自分なりのパラメータを設定した上で分析している様子が窺える。また、「移動平均とストキャスティクスを組み合わせて活用」、「ひとつには絞れない」などの回答も散見されており、相場環境や通貨ペアによって異なるテクニカル分析手法を活用しているFX投資家も少なくないようだ。



**問11:ドル/円は、年内に今年これまでの高値(84.17円)もしくは安値(76.02円)を更新すると思われますか？**

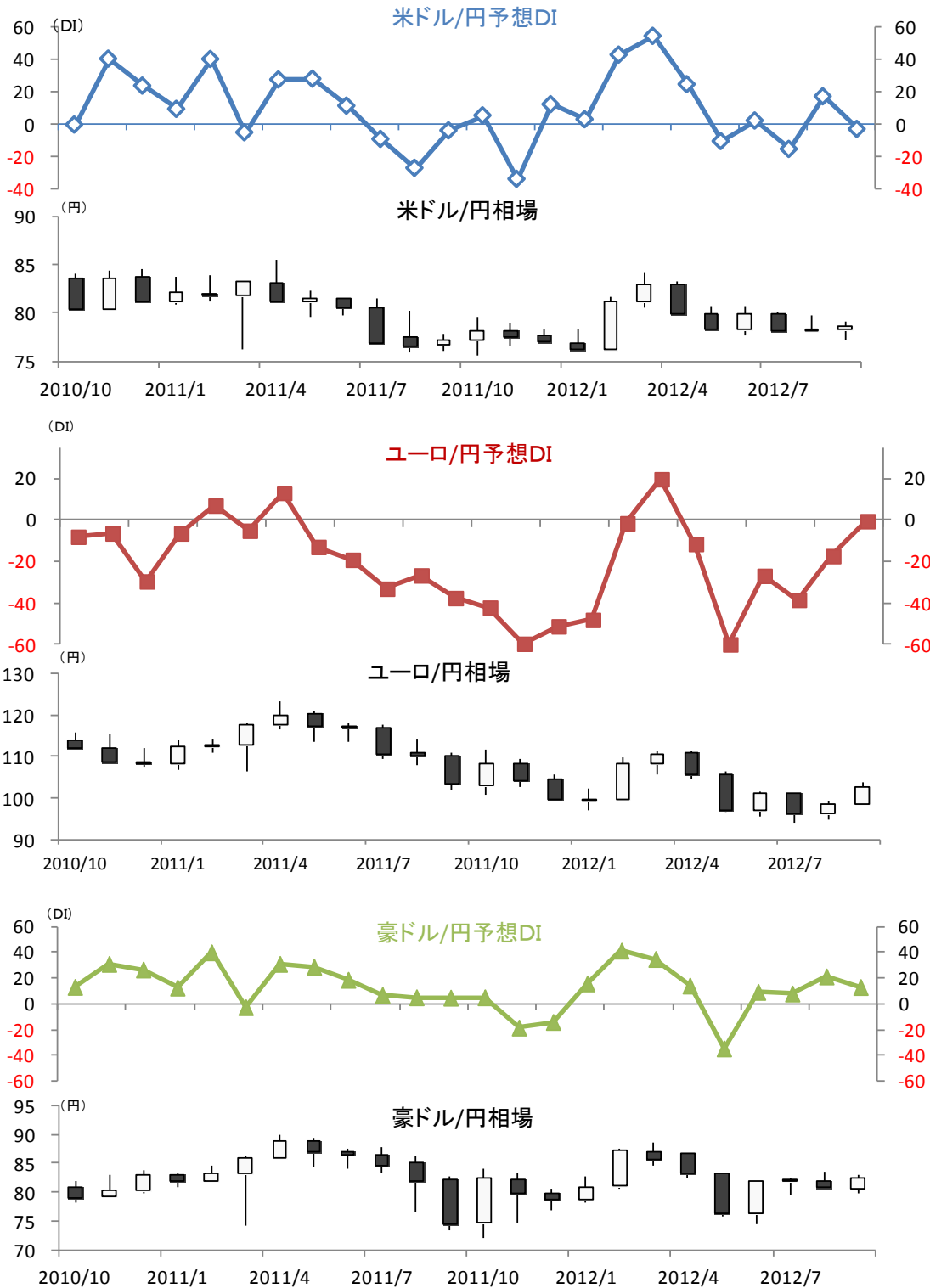
今月のもうひとつの特別質問項目として、ドル/円は、年内までに今年これまでの高値(84.17円)もしくは安値(76.02円)を更新すると思われますか？と尋ねたところ、「いずれも更新しない」が64.7%と圧倒的に多く、「安値(76.02円)を更新」が22.1%、「高値(84.17円)を更新」が10.9%という結果となった。調査期間中のドル/円相場が概ね78円台で推移している点から見て、高値の更新は難しいとの判断はうなずけるが、安値を更新するとの見方については「のりしろ」が2円強しかないにもかかわらず意外なほど少ない。なお、FX投資家の大方の見立てどおりにドル/円が高値も安値も更新することなく今年の取引を終える事になれば、年間値幅記録としては過去最小となる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第40回目となりました。調査開始から3年以上が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。今後についても、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握を進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2010年	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0

(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com